

課題名	簡易被覆栽培によるなしの熟期促進について							
成果の要約	3月上旬から5月上旬までの簡易被覆と植物調節剤処理を組合わせた栽培で、果実の肥大促進と6~10日程度の熟期促進を図ることができた。							
成 績 概 要	第1表 地上部生育相							
	品 種		新 水		幸 水		二十世紀	
	年度	栽培型	被覆区	露地区	被覆区	露地区	被覆区	露地区
58	発芽期 展葉期 開花始期 満開期 落花期 収穫始期 収穫終期 満開期~ 収穫始期	月 日 3. 31 4. 3 4. 5 4. 7 4. 9 7. 24 — 108日	月 日 3. 31 4. 5 4. 7 4. 9 4. 11 7. 28 8. 10 110日	月 日 4. 1 4. 8 4. 10 4. 13 4. 17 7. 28 8. 7 108日	月 日 4. 1 4. 10 4. 12 4. 15 4. 19 7. 31 8. 17 108日	月 日 3. 31 4. 6 4. 6 4. 11 4. 15 3. 17 8. 21 129日	月 日 3. 31 4. 8 4. 8 4. 11 4. 15 8. 23 9. 27 135日	
59	発芽期 開花始期 満開期 落花期 収穫始期 収穫終期 満開期~ 収穫始期	月 日 4. 6 4. 10 4. 14 4. 19 7. 24 7. 30 101日	月 日 4. 6 4. 14 4. 17 4. 21 8. 1 8. 6 106日	月 日 4. 7 4. 12 4. 16 4. 21 8. 5 8. 11 111日	月 日 4. 7 4. 15 4. 19 4. 23 8. 11 8. 21 114日	月 日 4. 7 4. 11 4. 14 4. 20 8. 11 8. 20 119日	月 日 4. 7 4. 12 4. 17 4. 22 8. 21 9. 13 126日	

第2表 収穫果の形質および品質

品種名	栽培型	果実重	横径	縦径	果皮色	硬度	糖度	種子色*
新 水	被覆区	248.8 b ^{**}	80.2	64.1	2.4 a	4.9 a	12.4 a	13.3
	露地区	215.5 a	77.3	58.1	2.6 a	5.1 a	12.2 a	10.3
	谷	213.6 a	76.0	57.4	2.8 a	5.1 a	13.1 b	3.3
幸 水	被覆区	324.2 b	87.2	70.2	2.7 a	3.4 a	11.7 a	71.1
	露地区	262.9 a	81.3	63.4	2.5 a	4.7 b	11.7 a	64.4
二十世紀	被覆区	326.6 b	86.4	71.4	3.1 b	4.2 a	10.5 a	35.6
	露地区	279.9 a	82.9	66.8	2.5 a	4.5 a	10.3 a	16.7
豊 水	被覆区	407.3 a	92.4	79.6	3.2 a	4.4 a	11.5 a	60.0
	露地区	378.8 a	90.8	75.9	3.6 a	4.3 a	10.9 a	60.0

$$\text{種子色} = \frac{(\text{黄色}) \times 0 + (\text{やや黄色}) \times 1 + (\text{やや褐色}) \times 2 + (\text{褐色}) \times 3}{3N} \times 100$$

** 同一品種の縦の同一文字は5%レベルで有意差なし

調査月日	新水	被覆区	月 日	二十世紀	被覆区	月 日
		露地区	7. 25		露地区	8. 20
		谷	7. 30		露地区	8. 25
	幸水	被覆区	7. 30	豊 水	被覆区	8. 20
		露地区	8. 6		露地区	8. 25
			8. 10			

(昭59長崎果試)

普及上の留意点

1. トンネルの設置によってかなりの風圧を受けるので、風当たりの少ない園を選び、老朽化した棚は補強を行う。
2. 温度管理は28℃を目安に行い、被覆内部の気温が30℃を越す日が多くなる5月上~中旬にビニールの除去を行う
3. 樹の発育ステージが露地よりも早くなるので、病虫害防除の適期をのがさないようにする。
4. 人工授粉は必ず実施する。

その他